

平群

Heguri

≡議会だより 3月定例会

No.265

平成30年5月1日

発行:奈良県平群町議会

第1回定例会(3月)

議決結果	2
質疑あれこれ	3~4
議会の動き・議員提出議案	5
文教厚生委員長報告	6~7
予算審査特別委員長報告	7~10
町政を問う! 一般質問	10~15
町の話題	16



笑顔あふれる一日に “HEGURI HAPPY FESTA” (平成30年3月17日 平群中央公園にて)

第1回定例会 こんなことが決まりました

第1回定例会は3月2日～20日まで19日間の会期で開かれました。初日は、町長提出の29案件が上程され審議し、うち16案件を即決。介護支援関連の条例制定と国保税条例改正、介護保険条例改正の3案件は議員発議の国保税条例改正議案、介護保険条例改正の修正案とともに文教厚生委員会（6日）に付託。2日目は、新年度の一般、特別、事業の各会計予算10案件を審議した上で予算審査特別委員会を設置して付託（7～8日）しました。

一般質問は12、13日に行い、10名の議員が町政課題について質問・提言しました。

最終日は、文教厚生委員会と予算審査特別委員会の審査結果報告をつけ、この日に提出された新年度一般会計予算修正案とともに採決を行うとともに、議員提出の意見書3件が上程され審議・採決を行いました。

議決結果賛否一覧

○賛成 ●反対（議長は、可否同数のとき議案の可否を決定します）

提出区分	議案名	議決結果	山本隆史	城内敏之	井戸太郎	森田勝	稲月敏子	植田いずみ	山口昌亮	高幣幸生	窪和子	下中一郎	馬本隆夫	山田仁樹
町長提出議案	平群町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営の基準等に関する条例の制定について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平群町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平群町国民健康保険条例の一部を改正する条例について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平群町介護保険条例の一部を改正する条例について	原案可決	○	○	○	●	●	●	●	○	○	○	○	
	平群町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平群町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平群町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平群町後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成29年度平群町一般会計補正予算(第6号)について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成29年度平群町国民健康保険特別会計補正予算(第4号)について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成29年度平群町下水道事業特別会計補正予算(第3号)について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成29年度平群町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	副町長の選任に同意を求めることについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	教育長の任命に同意を求めることについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	監査委員の選任に同意を求めることについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	固定資産評価審査委員会委員の選任に同意を求めることについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	固定資産評価員の選任に同意を求めることについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	人権擁護委員候補者の推せんにつき意見を求めることについて	原案承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成30年度平群町一般会計予算について	原案可決	○	○	●	●	●	●	●	○	○	○	○	
	平成30年度平群町住宅新築資金等貸付事業特別会計予算について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成30年度平群町国民健康保険特別会計予算について	原案可決	○	○	●	●	●	●	●	○	○	○	○	
	平成30年度平群町下水道事業会計予算について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成30年度平群町下水道事業会計予算について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成30年度平群町農業集落排水事業特別会計予算について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成30年度平群町学校給食費特別会計予算について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成30年度平群町介護保険特別会計予算について	原案可決	○	○	○	●	●	●	●	○	○	○	○	
	平成30年度平群町奨学資金貸付事業特別会計予算について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成30年度平群町後期高齢者医療特別会計予算について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
議員提出議案	平群町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について	否決	●	●	○	○	○	○	○	●	●	●	●	
	平群町介護保険条例の一部を改正する条例に対する修正動議	否決	●	●	●	○	○	○	○	●	●	●	●	
	平成30年度平群町一般会計予算に対する修正動議	否決	●	●	○	○	○	○	○	●	●	●	●	
	洪水回避等を目的とした流量確保のための中小河川の河道掘削の予算の確保を求める意見書(案)	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	県立高校再編成に関する意見書(案)	否決	●	●	●	○	○	○	○	●	●	●	●	
	国民健康保険事業納付金については事業実績にもとづいて翌年度に精算することを求める意見書(案)	否決	●	●	○	○	○	○	○	●	●	●	●	

議長は採決に加わりません

質疑あれこれ

3月議会に上程された議案及び
質疑を紹介します。

職員の特殊勤務手当に関する条例の一部改正

特殊勤務手当のうち、町税徴収手当、環境衛生業務手当、出納業務手当、乗務手当を引き続き1年間不支給にするものです。

主な質疑

質問 毎年出てる議案。いつから続いているのか。本来支給すれば、その経費は。

答弁 このような形になったのは平成20年度から。影響額は28年度決算ベースで140万円程度となっている。

指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正

指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準の一部が改正され、共生型サービスや介護医療院の創設など、所要の改正を行うものです。

指定地域密着型介護予防サービス事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部改正

指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準の一部改正に伴い所要の改正を行うものです。

指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部改正

る条例の一部改正

指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準の改正に伴い所要の改正を行うものです。

後期高齢者医療に関する条例の一部改正

法律の改正に伴い、前住所地特例適用者が75歳到達時に加入する後期高齢者医療は前住所地の広域連合への加入となるようにするものです。

平成29年度一般会計補正予算（第6号）

補正総額は1億4067万5千円。歳出の主なものは、人件



費の調整で2413万7千円、し尿処理費778万9千円、教育関連603万円を減額。国民健康保険会計繰出金5707万7千円、治山事業費2175万7千円、農業関連災害復旧費1433万6千円、北小学校のエアコン整備事業費6354万円、下水道事業特別会計へ繰出金2000万円を増額します。

歳入では、歳出の事業費増加に伴い国庫支出金1930万8千円、県支出金6326万6千円を増額し、北小学校のエアコン整備と治山事業の一部については町債5660万円を発行します。

主な質疑

質問 北小学校のエアコン設置について、すべての教室なのか、またスケジュールは。

答弁 普通学級12、特別支援2、その他6の20教室に絞り込んでいる。スケジュールは、3月中に工事発注の準備、4～5月に業者の選定を行い、6月議会に工事請負契約の議案を上程し、議決を得れば、夏休み中に工事を実施して9月から供用開始と考えている。

質問 南小学校は新年度予算でエアコン設置の設計費が計上され設置の方向になったが、中学校についての計画は。

答弁 小学校の次は中学校との思いはあるが、時期は未定。

質問 新規に職員は採用しないの方針だが、退職者が出ている。この辺の整合性は。また、教育委員会の超過勤務手当が増額になった要因は。

答弁 当初、予定のなかった昨年末に2名が退職したが補充はしない。職員も3年間、採用を凍結する。2名分については業務改善で吸収するか、場合によっては臨時職員で対応する。超勤の増加は国民文化祭のイベントと会計検査が2回入ったことによるもの。

質問 若井火葬場の撤去作業340万円が繰越明許になっているが、なぜ工事をしないのか。

答弁 火葬場の底地や墓地の管理面で地元と協議していることがあり、それをふまえて撤去の話を進めている。

次頁へ続く

質問 緑ヶ丘のコミプラが公共下水道に未接続ということで減額になることだが、どういふことか。

答弁 緑ヶ丘の2カ所のコミプラを接続する予定だったが、不明水、雨水の浸入水がなかなか改善されず今年度の接続を断念した。新年度に接続するつもりをしている。

質問 文化センター・図書館建設事業で1620万円の翌年度繰り越しがあるが説明を。

答弁 基本設計、実施設計業務の請負額は約6800万円。基本設計に利用者の意見を反映させるためにワークショップを開催し、多くのご要望をいただいた。それに時間を要し、業務が2カ月程度遅れることになり、3月末で図面関係はほぼ終わるが、積算業務と申請業務が残ることから繰越明許費を設定した。

質問 道路橋梁費で9364万円の新年度への繰り越しについて説明を。

答弁 繰り越しの大半は、都

市計画道路西線の暫定道路事業費約7500万円。あとは平群駅前線の拡幅に伴う建物補償と竜田川まほろば遊歩道整備が遅れていること、そして新たに、ゆめさとこども園前の歩道の延長工事を早急に着手できるように現予算で捻出して繰り越しとして対処している。

質問 今回の補正で不用額を計上しているが、不用額は通常、決算で出している。歳出に対して歳入が足りない場合は基金の取崩で調整するが、基金が1億数千万円になっている状況ではそれはしたくない。確定した部分だけ不用額で対応したのか。

答弁 歳入の不足分については、なるべく既存財源の中で確保するというところで歳出の減額補正（不用額）をあげた。

質問 先日全員協議会で今年度の実質単年度収支予測を6900万円の赤字としていたが、今回の補正も加味したものか。

答弁 収支見込みについては今回の補正も加味したもの。

質問 北小学校のエアコン設置についてはもともと新年度予算でということだったが、補正に計上した理由は。

答弁 国の補正予算の中に学校施設の整備事業があり、このほうが財政的に有利なことから手をあげた。補助金と残りが起債で充当率100%、後年度に交付税算入50%となっている。

質問 国保会計への繰出金5707万7千円。保険基盤安定分の繰り出しということで、当初予算と合わせて1億3千万円になる。国保税が大幅にアップしたことで減免に要する費用も大きく増加する。当初予算で計上すべきだったのでは。

答弁 税率改正して、このことは予測していたが、精査が来ていなかった。

平成29年度国民健康保険特別会計補正予算（第4号）

国保税の減免額の増加による税収入の減額分を一般会計からの保険基盤安定化繰入金で補い、そのうち保険者支援分は歳入欠陥補填収入を減額するものです。

主な質疑

質問 今年度の実質単年度収支について、2月の国保運営協議会では1億円の黒字。実質収支は前年度の1億1440万円

の赤字から1450万円程度になるとの説明だった。それ以降の状況と今回の補正も含めて、現時点で今年度の収支をどのようにみているのか。

答弁 今回補正した保険基盤安定分は運営協議会時点で反映している。国からの療養給付負担金も県へ出している数字をそのまま出している。ただ、調整交付金は法定どおり入れているものの、まったくわからない状況で未定の部分があるが、2月の運営協議会の決算見込みとあまり乖離はないと思っている。

町議会をネットで傍聴できます



平群町議会は、本会議の様態をインターネットで平成26年9月議会から録画配信しています。町のホームページからアクセスできます。（Windows Media Playerが必要です。）

同意

副町長

西脇 洋貴 氏

住所 平群町吉新

西脇洋貴氏を副町長に選任することを全会一致で同意しました。



教育長

岡 弘明 氏

住所 平群町梨本

岡弘明氏を教育長に任命することを全会一致で同意しました。



監査委員

近藤 恭子 氏

住所 東大阪市

近藤恭子氏を監査委員に選任することを全会一致で同意しました。



固定資産評価審査委員会委員

大西 晃 氏

住所 大阪市中央区

大西 晃氏を固定資産評価審査委員会委員に選任することを全会一致で同意しました。



固定資産評価員

西脇 洋貴 氏

住所 平群町吉新

西脇洋貴氏を固定資産評価員に選任することを全会一致で同意しました。

人権擁護委員候補者の推薦

森田 アイ子 氏

住所 平群町下垣内

森田アイ子氏は適任であるとの意見で答申することに全会一致で承認しました。



議会の動き

議会運営委員会

2月16日(金)

※平成30年平群町議会第1回定例会の議会運営について

駅周辺整備事業特別委員会

2月22日(木)

※駅周辺整備事業の進捗状況と清算金について

公共交通対策特別委員会

2月26日(月)

※コミュニティバス運行事業の現状報告とルート・ダイヤ改正(案)について

全員協議会

2月26日(月)

※平成30年度予算における(仮称)平群町文化センター・図書館建設事業について

※今後の財政状況について

議員提出議案

平群町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について(否決)

提出者 山口 昌亮

賛成者 植田 いずみ、稲月 敏子

平群町介護保険条例の一部を改正する条例に対する修正動議(否決)

提出者 山口 昌亮

賛成者 植田 いずみ、稲月 敏子

平成30年度平群町一般会計予算に対する修正動議(否決)

提出者 山口 昌亮

賛成者 植田 いずみ、稲月 敏子

洪水回避等を目的とした流量確保のための中小河川の河道掘削の予算の確保を求める意見書(案)(原案可決)

提出者 窪 和子

賛成者 高幣 幸生

県立高校再編成に関する意見書(案)(否決)

提出者 稲月 敏子

賛成者 植田 いずみ、山口 昌亮

国民健康保険事業納付金については事業実績にもとづいて翌年度に精算することを求める意見書(案)(否決)

提出者 山口 昌亮

賛成者 植田 いずみ、稲月 敏子

文教厚生委員長報告

指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営の基準等に関する条例の制定について

この条例は、介護保険法の改正により、居宅介護支援事業者の指定権限等が県から町に移譲されることにより指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営の基準等を定めるものである。

質問 居宅介護支援事業者の指定が奈良県から平群町に移譲されるが、それにより何が変わるのか。

答弁 特に変わることはない。

質問 平群町内での条例の対象となる事業所数は。

答弁 2月1日現在、11事業所が対象である。

質問 条例対象事業者の認識度は。

した納付額を元に平群町の標準保険料率を県が示しているが、県の標準料率と現在の平群町の料率の比較について提出者の考えは？

答弁 かなり前から国が進めており、対象となる事業所も認識していると考えている。ただ、介護支援専門員に関しては、経過措置があるにせよ、33年4月以降は主任介護支援専門員がいないと運営することができない。今後、指定権限が町になるので、しっかりと説明していきたい。

討論なく、全員異議なく原案どおり可決すべきものと決定しました。

国民健康保険税条例の一部を改正する条例について〈議員発議〉

この条例は、保険料率を昨年度比1・6倍のまま維持しているもので、県内でも飛び抜けて高い。加入者住民の負担を軽減するため、奈良県が示した36年度統一料率に合わせ、保険料率を変更するものです。

質問 平成30年度、県の算定

提出者答弁 県は被保険者5099人とし、納付額を約6億2471万円とした。しかし現状の被保険者5000人余で5億8447万円になる。4000万円ほど差が出る。さらに30年度は4950人として予算を組んでおり、その場合、5億1432万円となる。約7000万円の差が出る。

質問 県への納付額について、県の積算は現実の30年度の被保険者と71名もの差があるが、県は平群町の実数に合わせてくれるのか？

答弁 県はもともと27年4月～29年10月で5319人として

積算。町が要請して、29年10月末での確定値5099人での積算になった。しかし、30年度1月末確定人数5028人に合わせるの難しいと聞いている。

質問 被保険者推移をみると急激な落ち込みがあるが、この運営方式で6年間続けるのか。

答弁 県が方針を定めることになっており、その県の方針では納付金の積算も含め3年に1度見直すことになっている。

質問 県への納付金が不足した場合の一般財源からの繰入は？

答弁 県の方針では一般財源の繰り入れは認めず、赤字になれば増税して補つことになる。

質問 提出者が改正料率を36年度の県の統一料率に設定した根拠と、そのことで赤字になった場合の打開策について提出者の考えは？

提出者答弁 35年度までは市町村の裁量にまかされており、県の方針もまだ決まっていない。それを前提での話になるが、県の統一料率と現行の料率との差

の4000万円については、赤字の可能性もある。しかし、予備費500万円と29年度の清算金3400万円は不透明で、計4000万円近くになる。今高過ぎるのだから少し下げて様子を見るべき。

反対討論

赤字になれば値上げしなければならぬ。安定した国保へもつていくべき。

県の算定した基準の納付金を支払わなければならない。国保税を下げることで基金を取り崩しては激変緩和に対応できない。3年後の運営見直しまでは現状維持すべき。

賛成討論

29年度の国保税引き上げはあまりにもひどい。30年度もこのままいけば、住民生活がもたなくなる。少しでも引き下げて推移を見ていくべき。

高い保険料が理由で平群町を出ていきたいと考える人がいる。県の統一化の際の料率に合わせるべき。

採決の結果、挙手少数で否決すべきものと決定しました。



国民健康保険税条例の二部を改正する条例について

この条例は、奈良県国民健康保険保険給付費等交付金の交付及び国民健康保険事業費納付金の徴収に関する条例が制定されたことに伴い、条例の規定整備を行うものです。

全員異議なく原案どおり可決すべきものと決定しました。

介護保険条例の二部を改正する条例について

この条例は、保険料率を改定す

ること及び介護保険法の改正に伴い必要な改正を行うものです。

この条例改正に対して、修正案が提出されました。その内容は、保険料率の改定に関して、原案と異なる保険料率を提案したものです。

質問 決算見込みで第6期終了時点で基金が約3億2300万円にもなる理由は。

答弁 計画よりもサービス利用者が少なかった。

質問 基金の内、町提案の1億5000万円取り崩すと1億7300万円残るがこれはどう

するのか？

答弁 7期最終年度の基金残高は1億5000万円から1億7000万円ほどで、基金は8期に活用していく。

質問 修正案の2億5000万円の基金取り崩しの場合、7期終了時の基金残高について提出者の考えは？

提出者答弁 過去の例を見てわかる通り、計算通り行かない。計画を出す場合平均より高めに給付費を設定している。ここ何期も、計画では赤字になっていても、3年トータルで赤字になっ

たことは1度もない。計画通りにはならない。新年度は赤字にならないし、3年間トータルで基金は増えるだろう。

修正案に反対 原案に賛成の討論

平群町の高齢化は避けられず、第7期のサービス利用料が増加傾向にふれることが予測される。介護運営協議会の委員長の答申は、原案の方に近い。運営協議会の委員の立場でもある。

修正案に賛成 原案に反対の討論

第6期で、基金3億2300万円貯まってきた。少しでも還元していくべき。介護保険の見直しは3年に1回しかできない。基本的には貯まったものは次で返すべき。第9期で上がるから第8期で活用するという考え方は間違っている。

採決の結果、修正案について挙手少数で否決すべきものと決定し、原案については、挙手多数で可決すべきものと決定しました。

文教厚生委員会
委員長 井戸 太郎

予算審査特別委員長報告

一般会計

質問 東山駅のバリアフリー化の事業内容は。

答弁 点字ブロックの設置、多目的トイレの新設、券売機の改良、誘導チャイムの設置等。

2番線はエスカレーター・エレベーター・階段となり、1番線はエレベーターと階段で対応したい。

質問 町内の防犯カメラの設置予定は。

答弁 町が主導的に幹線道路



付近に設置を目指す。

質問 防犯カメラ付き飲料用自販機の設置予定は。

答弁 今年度の設置場所は、本庁前・あすのす平群付近・プリズムへぐりの3カ所で、今後とも協議して増やしたい。

質問 プリズムへぐり開設20周年となるが、式典等は。

答弁 健康フェスタの日に合わせ、全館的に式典を開催した

質問 産前産後サポート事業の内容は。

答弁 妊娠届を出された妊婦に対し、きめ細やかな制度の説明や体調管理を行い、出産や育児に対する保健センター（プリズムへぐり）等での関わりを密にする事業である。

次頁に続く

質問 清掃センターの老朽化問題は。

答弁 天理の広域化へは参加していないが、他の自治体との勉強会に参加し広域化の検討も行っている。

質問 有価物の集団回収助成金が、約200万円減っている理由は。

答弁 26年度をピークに減少している。雑誌の分別が進んでいないのが現状。

質問 平群の新しいブランド品を認定する予定は。

答弁 道の駅で製造している古都華ジャムの申請を受ける予定。

質問 国土調査の最終年度と今後の調査場所は。

答弁 計画では37年度に事業完了を目指し、今後は三里、上庄の一部、平等寺、下垣内、白石畑を調査予定。

質問 公園管理委託料で、遊具の点検料が計上されていないのは。

答弁 これまで毎年点検していたが毎年同じ結果になることから、今回は修繕料を計上し、点検は2年に1回実施する。

質問 公営住宅の今後の改修計画は。

答弁 くろもと団地では今年度3戸改修中で、30年度で3戸改修予定。特定入居で1戸を確保しているので計7戸を用意し、入居者の要望に応える。

質問 平群町消防団員の定数は74名で現在61名だが、補充施策は。

答弁 広報の募集掲載や町内スーパードにポスターを掲示し、また消防団役員会で団員の増員を促している。

質問 南小学校のトイレ洋式化率が進展していないのは。

答弁 補助要望を上げる段には至らなかったが、多目的トイレを中心に県とも協議し、進めて行きたい。



平成30年度一般会計・特別会計予算総括

(単位：千円)

区 分		平成30年度 予算案	平成29年度 予算額	比 較	
				増減額	増減率 (%)
一 般 会 計		8,510,000	6,740,000	1,770,000	26.3
特 別 会 計					
住宅新築資金等貸付事業特別会計		12,811	21,172	△8,361	△39.5
国民健康保険特別会計		2,486,300	3,144,346	△658,046	△20.9
農業集落排水事業特別会計		36,600	35,600	1,000	2.8
学校給食費特別会計		67,022	69,378	△2,356	△3.4
介護保険特別会計 保険事業勘定		1,747,898	1,832,564	△84,666	△4.6
奨学資金貸付事業特別会計		923	923	0	0.0
後期高齢者医療特別会計		387,098	354,575	32,523	9.2
特 別 会 計 合 計		4,738,652	5,458,558	△719,906	△13.2
企 業 会 計					
水道事業	水道事業収益	554,001	509,712	44,289	8.7
	水道事業費用	653,491	625,885	27,606	4.4
	資本的収入	73,190	183,443	△110,253	△60.1
	資本的支出	114,679	180,490	△65,811	△36.5
下水道事業	下水道事業収益	318,557	501,800	318,557	-
	下水道事業費用	386,417		386,417	-
	資本的収入	334,047		334,047	-
	資本的支出	334,018		334,018	-

※平成29年度下水道事業特別会計予算額 501,800千円

質問 総合型スポーツクラブ

(くまがしクラブ)の法人化で、町の見解は。

答弁 一般社団法人になるこ

とで、町を介さずに助成を受けることが出来るので、自立した事業を展開することになる。

質問 入湯税の減少傾向の要因は。

答弁 入湯税収は、かんぽの宿へぐりのみで、30年3月より毎週火曜日を定休日とすることで、週2日の宿泊客減少に伴う減額を行う。

反対討論

町が示した財政シミュレーションでは2022年度末には5億円近い赤字となり、2019年度から公債費の返済は11億円台が10年以上続く。また延長保育料、一時預かり保育料が引き上げられ、コミバス事業が縮小する状況は更なる人口減少を生み、町税減収に繋がる。新年度の予算から文化センター図書館の建設予定を外し、保育料値上げを撤回し、子育て支援を実行すべきと考えることから反対する。

賛成討論

新年度においても、未確定財源を含んだ予算編成であるが、第5次総合計画や人口ビジョンに基づいた所要の予算が計上されている。今後、大きな財政支出もあるが、安心して住める町づくりに関する予算が計上されていることを評価し賛成する。

厳しい町財政の財源確保として、歳出ではコミバス運行や社協補助金の見直し、職員新規採用の凍結。歳入では普通財産の民間売却やデジタル方式防災無線の設置、高校卒業までの医療費無料化など、住民全体の福祉向上となる予算が計上されている。予算執行において、町長を軸に職員一丸となり、最小の経費で最大の効果を挙げられるよう、お願いをして賛成する。

採決の結果、挙手多数により原案どおり可決することに決しました。

国民健康保険 特別会計予算

質問 29年度の実質単年度収支は約1億円の黒字予想。28年度

収支から2億3500万円の乖離が見込まれるが、その原因は。

答弁 29年度は予想以上の前期高齢者交付金が入ってきた。

質問 広域化において、県が算出した税率と町の税率がかけ離れている要因は。

答弁 県の納付金には保健事業や国等への返還金が含まれていないため、乖離が生じている。

質問 加入者が1年間で約800人減少した要因は。

答弁 社会保険より国保税が高いため、退職者が社会保険の任意継続を選択されることや、景気が好調で就職率がかなり高いことなどが考えられる。

質問 もし減税を行い、町の国保会計が赤字になれば、どうなるのか。

答弁 一般会計からの繰入や繰上充用は認められないので、県から借金し翌々年度に増税して、借金を返済することになる。

質問 県は納付金等の推計値を3年後に見直す、3年後の

推計について町はどのような見解か。

答弁 現状の医療給付推計は低い伸び率で設定されているため、33年度以降の試算税率は高くなる可能性がある。

質問 平群町は人間ドッグなど他市町村より手厚い保健事業に取り組んでいるが、今後はどうなるのか。

答弁 町独自の費用は、県の保険料率に算定されていない。国は保健事業の費用対効果が薄いことを示しているので、事業縮小の検討も必要。基金を保有しておき、保健事業を維持したい。

反対討論

29年度に1・6倍の大幅な増税が可決された。町は住民に対し、増税しても29年度の収支はとんとんで、累積赤字は2億5000万円になると説明した。しかし、今年度末見込みの累積赤字は1400万円程度。住民の信頼を回復し、暮らしを守るという点では見直しをかけるべきであることから反対する。

賛成討論

30年度の国保予算は県単一化の編成であり、納付額が決定された時点での被保険者数は5099人、30年1月末では5028人まで減少し、このまま減少し続けると県への納付金が確保できなくなる。30年度で赤字となった場合は県基金から借りて補填し、次年度以降に増税して返還することになるので、現税率を維持すべきと考えることから賛成する。

採決の結果、挙手多数により原案どおり可決することに決しました。

水道事業会計予算

質問 石綿管の今後の改修計画は。

答弁 町内の石綿管は約2・4km残っており、30年度は越木塚、福貴、福貴畑で布設替えと漏水調査を行う計画。

審議の結果、全員異議なく原案どおり可決されました。
次頁へ続く

町政を問う! 一般質問一覧

山口議員	1. 町財政の今後の見通しについて 2. 小中学校へのエアコン設置と早期のトイレ改修 3. コミバス運行についての提案 4. 榎原の農地への土砂等不法投棄の早期改善を
下中議員	1. 官学連携の充実について 2. 「観光大使」制度の導入を 3. 公用車にドライブレコーダーの設置を
井戸議員	1. 平群町の運転免許証返納推進、無責任では？ 2. 町の「いばらの道を進む」と言う答弁、いばらの道を進むのは、誰か？ 3. 平群駅前の周辺整備事業の予想外の町の大幅負担、この「責任」は誰がとる？ 4. この状況下で、急いで公民館建設決定し「いばらの道」を選んだ結果、平群町が破綻した場合、「責任」は誰がとる？
植田議員	1. 多子世帯の給食費補助制度の創設について 2. ごみ減量の推進について
森田議員	1. 駅周事業は失敗では 2. 平群町が潤う観光開発を 3. 災害時の避難場所の開設基準は
高幣議員	1.人口減を考え親、子世帯の「近・隣・同居」を
城内議員	1. 平群町水道事業の将来性、方向性について 2. 椿井城登城路の整備 3. 椿井城北郭について
馬本議員	1. 高齢者運転免許自主返納者支援事業要綱について 2. 給食費の一部助成を 3. 公有財産の不動産管理について 4. 平群駅西特定土地区画整理事業について 5. 公共交通空白地域の解消へ
稲月議員	1. 障がいを持つ人びとの生き生きとした生活の保障を 2. 延長保育料大幅引き上げは見直しを
窪 議員	1. (仮称) 子ども未来課の創設で、きれ目ない子育て支援を 2. SNSを活用したいじめなどの相談体制の構築を 3. 子ども医療費の窓口無料化の早期実施を 4. 学校給食費の無償化について 5. コミバス運行の利便性向上へ抜本的な見直しを 6. 竜田川駅バリアフリー化の早期実施を

下水道事業 会計予算

質問 緑ヶ丘地区の現状と今後の予定は。

答弁 全体的に下水管そのものが痛んでおり、宅地までの取り付け管も老朽化が進んでいる状況。緑ヶ丘地区は雨水管と污水管が並んで敷設されており、大量の雨水が污水管に進入する大変な状況であるが、できるだけ早く公共下水道に接続できるよう調査しながら修理を進める。

審議の結果、全員異議なく原案どおり可決することに決しました。

学校給食費 特別会計予算

質問 地産地消事業の現状と今後の見通しは。

答弁 地元農家の高齢化により量的に少なくなっているが、給食に溶け込ませるような献立で積極的に地元野菜を多く使えるように生産者と調整し、より多く

使える見込み。
審議の結果、全員異議なく原案どおり可決することに決しました。

介護保険特別 会計予算

質問 介護保険料について、隣の保険料は。

答弁 第6期は広域7町で3番目に安く、生駒郡では一番安い。金額は河合町4900円、上牧町5

2000円、平群町5228円、三郷町5250円、斑鳩町5359円、王寺町5460円、安堵町5700円。

反対討論

第6期の納付金は計画の85%となり、今年度末の基金残高見込みは3億2300万円。この基金は1号被保険者に還元すべきものである。しかし新年度予算では1億5000万円の還元に留まっておりますので反対する。

賛成討論

30年2月20日に第7期平群町介護保険事業計画策定委員会が開催され、基金の取り崩し額を1億円か1億5000万円とし、町長に答申された。高齢化が進み1号被保険者並びに認定者の増加に伴い、給付費も増となる。第8期、第9期の給付費増も予想されることから賛成する。

採決の結果、挙手多数により原案どおり可決することに決しました。

予算審査特別委員会
委員長 山本 隆史

コミバス運行についての提案

質問



山口 昌亮

高齢化率37%、坂の多い平群町では、コミバスなどの地域公共交通の充実が求められるが、これまで小手先のルートやダイヤの改編で利用者は減少してきた。新年度からはさらに「財政健全化」を理由にバスを3台から2台にするところになっている。この結果、便数が大幅に減り、利便性が悪化し、益々利用しにくいものになると危惧する。そこで次の改善策を提案する。

①15人乗りの小型バスで1時間ごとに1便、南



部・西部・北部の3ルートに。
②各ルートを右回りと左回りの交互に運行する。
③すべての起点を平群駅前にして乗り換えができるようにする。

答弁

①小型化は現在、通学用としても利用しているので、登下校に支障がないかの検討が必要であり、4月改正の運行状況を2年間程度検証したうえで検討する。

②右回り、左回りの交互運行についても小型化が前提なので改正ルートの運行を検証した上で検討する。

③平群駅を起終点にすることでルートやダイヤのわかりやすさだけではなく、他の交通機関への乗り継ぎなどの利便性からも今後必要と考えるが、改正ルートの運行を検証した上で検討しつつ。

「観光大使」制度の導入を

質問



下中 一郎

本町は、京阪神方面から近く、近場で手軽な観光地として、町外からも多くの方が来られますが、平群町の知名度は、まだまだ低い状況です。この知名度をより上げるために、現在、様々な情報手段で情報発信されているが、さらにイメージアップを図る方策として、観光大使制度の導入を検討すべきと考えます。

文化・芸術・スポーツなどの各分野で活躍され

ている町出身者やゆかりのある人に、観光大使をお願いし、職域や自分の活動場面で、平群町の良さをPRしてもらうことです。

また、町内在住の方には、大使を公募して、数



名の方に就任していただき、町内外のイベントに積極的に参加して盛り上げてもらうことです。

このように、町の魅力を町内外に広く発信していくために「観光大使」制度を早期に導入すべきと考えるが。

答弁

「観光大使」制度の導入は、平群町の魅力を多くの方に知って頂き、知名度アップに大きな効果があると考えています。

今後、どのような方が観光大使に相応しいのか、また、地域住民を対象としたふるさと大使も含めて検討して参りたい。

急いで公民館建設し 平群町破綻、責任は誰?



質問



井戸 太郎

平群町は、平群駅前公民館建設に伴い大きな負債を負う。計画では負債約150億円まで膨らむ。H30年2月末、新たに大きな財政負担が生じる事が明らかになった。駅周辺整備事業の負担約3億円。公民館建設費用約3億円アップ。トータル6億

円。そこからまだ1か月も経っていない。この状況で建設の早急な決定は、常識的にあり得ない。ここまでする必要もないはず。

町の資料から解釈すると、急な建設で、運が悪ければ2年後に破綻。予定通りに行かなければ3年後に破綻。順調でも5年後に破綻となる。

私は、この「急いでの建設」が原因で平群町が「破綻する、破綻しなくとも事実上の破綻状態に陥る」と予想する。何れにせよ、この決定の責任はとてつもなく重い。

さて、破綻もしくは破綻状態に陥った場合、この責任は誰がとるのか? (※町長の任期は1年を切っている)

答弁

最終責任は町長がとることになっている。財政破綻しないように、任期満了まで頑張りたい。

多子世帯の給食費補助 制度の創設について



植田 いずみ

質問

子どもの貧困問題、子育て支援や定住したい環境や、「食育」の観点から全国的に学校給食費の全額無償化(全国83市町村実施)や半額補助などの自治体が増えてきています。出生率が県下一低く、15歳以下の人口も近隣では低い平群町。若い世帯の定住化は、今後の町づくりに非常に重要と考えます。現在、多子世帯への



支援として実施している第3子以降の保育料と学童保育料無料化に加え、学校給食費の多子世帯(町立小中学校に3人以上が在籍)の3人目以降、児童生徒の給食費無償化制度を創設し、安心して子育てできる環境づく

答弁

くりを整備して、若い世帯の定住促進につなげることを求めます。(対象児童・生徒47人、費用…約220万円)

全国的に給食費の無償化や補助の拡大を検討する自治体が増えてきている。教育委員会も子育て世代の負担軽減は、本町の子育て施策に有効な手法と考えるが、まずは給食の質を下げずに、給食費の値上げをしないように努め、地元野菜の積極的な導入を図るなどで食育を進め、今後、国や県の動向も注視し、調査・研究していきたい。

駅周事業は失敗では



町の財政負担が大きい駅周事業は、今頃になって小学校、役場等の公共用地の減歩率の関係で、増し換地の清算で、町が3億1300万円の拠出、負担と保留地が9箇所に点在している事が明らかになった。

これにより、昨年作成の財政シミュレーションよ

質問



森田 勝

り悪化し、町有地が計画通り売却できなかったり、保留地の売却差損の発生や突発的な歳出が発生したり、歳入が狂つと早期再建ラインを超えるのでは。また、公債費(借金返済)は平成31年度から10年近く11億円を超える。そこで、①関係者の役割と機関決定方法②清算金の発生する事を知った時期③平群駅改修計画④町への経済効果の検証⑤町財政への影響⑥工事遅延による補助金の交付の影響は。

答弁

①事業執行責任は駅周組合で、重要な事項は総会、理事会で機関決定している。また町駅担当は組合への技術支援、指導監督②町長を含めて町職員が知ったのは1月③交渉中で、④今のところ検証する予定がない⑤早期健全化ラインを超える可能性が高い⑥補助金対象の代替えで対応できる。

人口減を考え 親、子世帯の「近・隣・同居」を



高幣 幸生

質問

人口増の政策として、子育てプランです。移住するなら親の近く隣り同居です。国の調査では親子と祖父母との近・隣・同居が多い。子どもの緊急時の対応や不在時のサポートが高いと言われ今、各地自治体では住宅購入や増改築、引越し費用の助成支援策で人口の取り合いです。特に若年世代家庭に対してPRすべきです。



本町の子育て支援の第一歩として近隣同居の次世代育成住宅助成制度で子育ての平群として欲しい。

答弁

人口減を考え親子世帯の近隣同居について、平成28年3月に策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の定住化促進の取組で3世代同・近居への支援と施策を行っている。親子と祖父母世帯は協力し合う生活の促進であり、親子が祖父母世帯の医療や介護等の手助けを行える家族の役割分担が可能になる。定住促進奨励金と同様に個人給付で他事業との整合性や、又、現在実施中の定住促進奨励金制度が平成30年度迄であることを踏まえ、検証分析をして調査・研究したいと考える。

平群町水道事業の将来性、方向性について



城内 敏之

質問

今回の予算編成を見ると、多難の道であると考えられる。

そんな折、奈良県水道局の「県水道の一体化」の計画があると知った。

その内容や、スケジュールと、それに対する町水道局の考えをお聞きます。

答弁

県域水道一体化に向けたスケジュールとしては、平成30年度に県と市町村による検討会を発足させ、翌31年度には協議会を発足。32年度に覚書の

締結と、一体化施設整備計画の策定。33年度から一体化に向けての施設整備事業を開始。36年度に経営母体設立基本協定を締結し、平成38年度に県水道と市町村水道が一つの企業団として経営統合される予定。

町として県域水道一体化について期待できる点は、県内の浄水場の統廃合や配水池の相互利用により施設のダウンサイジング化が可能になり、施設更新費用が縮減出来る。また、昨今の職員数の減少傾向にも対応できる

と考える。
県域水道一体化に関する具体的なことは、今後、県と市町村が協議を進めていくことになる。



公共交通空白地域の解消へ



馬本 隆夫

質問

H30年度からコミバス運行は3台から2台に減車、高齢者や運転免許返納者等の対策として、コミバスとデマンドタクシーの並行運行をすべきだと思います。

①コミバスの新運行評価基準は出来ていますか。又、前年度より利用者減が予想されます。新運行評価基準は、現行基準よりハードルを低くすることは町の財政問題を無視したことになりますか。
②自家用のワンボックス

スカパー（10人乗り）2台をリースし運行すれば年間約1千万円位で運行できるのでは。（白ナンバーにより利用料金は無料）

③3台が2台になり公共交通のまちづくりは後退、町の間違った政策では



ありませんか。そこで、ワンボックスカーとコミバスを運行してこそ公共交通空白地域解消となります。速やかに並行運行をすべきと思いますが。

答弁

①新運行評価基準は出来ていません、速やかに作成します。

②約1400万円（2台購入・運転手・システム使用料等）

③コミバス運行の状況を2年間程度検証又、デマンドタクシーの導入については引き続き検討していきます。

延長保育料大幅引き上げは見直しを



子ども園では保育標準時間認定は11時間、保育短時間は8時間以内の保育を受け、保護者の就労時間、通勤時間に応じて特別保育として7時半から8時半の延長保育（月額500円）が利用できた。しかし、町は今年4月から1日200円、月額現行の6倍にあたる3千円に改定した。

延長保育利用者はこの

質問



稲月 敏子

ことを何の説明もなく「園だより」2月号で初めて知らされ、「6倍もの大幅引き上げ」に驚き、生活不安の思いを大きくさせている。「町の子育て応援に期待し家を建てた。これでは詐欺だ」「3人目を4月から預けて仕事に復帰。延長保育料だけで9千円にも。これなら3人目はあきらめたらよかった。」等の怒りの声が届いている。

「子育て支援ナンバーワン」の町を誇りに、女性の社会進出を応援し、安心して通勤できるように、延長保育料を見直すよう要望する。

答弁

本町の延長保育料は改正後も近隣町に比べて安価で、サービス提供に必要な経費の一部負担として適正な使用料となる様お願いするもの。今後その他の子育て支援策と併せて実施する中で子育て支援ナンバーワンを目指す。

竜田川駅バリアフリー化の早期実施を



窪 和子

質問

いよいよ東山駅が30年度内にバリアフリー化が完成。残るは竜田川駅のみで駅員不在で改札からホームまで11段の階段のため高齢者の方や障がいをお持ちの方々が安心して利用できない現状です。これまでもから竜田川駅のバリアフリー化について何度も一般質問をする中、昨年6月議会では「近



鉄本社とできるだけ早い時期に協議し、実現可能であれば積極的に進めたい」と前向きな答弁がありました。竜田川駅の段差解消に向け二日も早く、取り組むことが住民の願いであり、これまでの近鉄

答弁

との協議内容などについてお尋ねします。

昨年6月議会の一般質問以降、7月と12月に近鉄と会議を行い「小規模な簡易スロープの設置」も含め早期バリアフリー化の検討を依頼。7月に現地確認して頂く中「改札と階段が狭くはなるが、バリアフリー化は可能である」と回答を頂く。

今年2月「近鉄生駒線利用者促進協議会」では「3000人以上の利用者がいないため、優先順位にはならないが、対象人数が国で改正された場合、事業を進めたい」と回答があり引き続き協議し、利便性向上に努めたい。

町 の 話 題



“赤、ピンク、白”人気の3色いちご

「赤とピンクと白」と言えば？テレビや新聞に取り上げられるなど、いま平群町で最も注目されています。答えは「いちご」。品種名は古都華(赤)、淡雪(ピンク)、パールホワイト(白)。

パールホワイトは県内で生まれた新品種。希少性と品質を守るため栽培を認められているのは県内では6農家だけで、町内では2農家。その一人、農業一筋25年、いちご栽培7年の東伸幸さん(福貴、47歳)は昨シーズンから淡雪、今シーズンからパールホワイトを栽培。「大阪の市場から百貨店など国内だけでなく中国や台湾、香港、シンガポールなどの海外にも輸出されるようで、とくに春節(旧暦の正月)前は注文がすごかった」と言います。

パールホワイトと淡雪は、古都華に比べて販売価格は高いものの、収穫量は低いため、収穫量を増やすことが今後の課題。味は、酸味の少ない甘みのある品の良い味わいで、まったくの「別物」とのこと。

町内の道の駅「大和路へぐりくまがしステーション」では3品種がそろった商品が販売され、毎日「すべて完売」する人気ぶりです。

みなさんも、お土産や贈答用にも最適で、「インスタ映え」する赤、ピンク、白のいちごセットで「平群」を全国に発信してみたいかがでしょうか。

山口 記

議会事務局 職員の異動

西脇洋貴

3月31日付退職

(前 監査委員事務局事務職員
兼議会事務局事務職員)

※4月1日付で副町長に就任

訂正とお詫び

前号「No.264」の記事に間違いがありました。

6頁の4段目『一時預かり事業の実施に関する条例の一部改正』で「3歳以上児が1000円を1300円に引き上げるもの」とありましたが、「1200円に引き上げる」の間違いでした。訂正してお詫びいたします。



ご意見お寄せください

本紙へご意見をお寄せください。今後の紙面作りに活用させていただきます。

*FAX 49-0145

*メール

gikai@town.heguri.nara.jp

編集後記

深緑の季節となりましたが、今春、ホットな話題が沢山ありました。へぐり道の駅の「古都華パフェ」がインスタなどのSNS等でアップ。また今年初めて竜田川で「夜桜ライトアップ」や「鯉のぼりが大空を舞う」などが実施され、沢山の皆さまが、「平群がんぼ」に集まっています。お声が寄せられました。

この陰には、平群を盛り上げるために常に思われる生産者の方々や実施して頂いた「竜田川まほろば遊歩道」整備構想推進協議会の皆様、ご協力頂いた地域の皆様、また町職員のご苦労のおかげです。

課題が多い時こそ、皆で力を合わせ、笑顔で前に進むことが、未来の子どもたちに今、私たちが残せることではないかと考えます。

窪 記

